



COUNTER

リリース 5.1

COUNTER とオー プンアクセス

フレンドリーガイド



この冊子は、COUNTERリリース5.1実務指針をわかりやすく説明した「フレンドリーガイド」シリーズの一部です

このシリーズは、以下の冊子から成り立っています。

- COUNTERレポートの紹介
- COUNTERメトリックの紹介
- COUNTERのAttributes, Elements, そのほかの用語について
- COUNTERとオープンアクセス
- COUNTERに準拠するには
- コンソーシアム（団体）向けのCOUNTER
- リリース5.1変更点

このシリーズは、わかりやすい日本語で書かれています。COUNTER実務指針の中の文字列は、正確にはアンダースコアを用いてつながれて表記されます。たとえば、Data Typeは正確にはData_Type、Total Item Investigationsは正式にはTotal_Item_Investigationsと表記されますので、ご注意ください。

この冊子で説明されるもの

OAにCOUNTERを使う理由って?	3
費用対効果.....	3
ダウンロードごとのコスト.....	3
インパクト（影響力）	4
全世界へのレポート.....	5
使用状況をそれぞれの機関に関連付けるとは.....	5
グローバルレポートの作成について.....	5
グローバル・アイテムレポートがOAのかなめになる	6

OAにCOUNTERを使う理由って？

COUNTERは、オンラインで提供されるすべての学術出版物が、一貫性・信頼性をもって比較可能であるようにとの願いから、報告の受けとり側である図書館、コンソーシアム、報告の提供者である出版社、アグリゲーターと呼ばれる集約サービス社の協力により生まれたものです。なので、個々の出版物のライセンス状況や、出版物掲載のためだれが資金を提供したのかなどは、COUNTERのあり方を左右するものではありません。OAは出版物の利用を増加させると主張されておりますが、こういった主張は、まず同じメトリック使い、同じ方法で利用状況を測定した後でないと、裏付けることはできません。

費用対効果

COUNTERレポートは図書館員が定期購読出版物の購読価値を評価する際に使うものだ、と思っている人が多いと思いますが、COUNTERメトリックは、図書館がOAに対して行った投資価値を評価する際にも使えます。

ダウンロードごとのコスト

COUNTERレポートは、ダウンロードごとのコストを計算するために主に使用されてきました。しかし学術出版物中のOA比がかなり大きくなってきた昨今、図書館や資金提供者はOA出版物に対して、非OA出版物と同等のコスト計算を求めるようになってきました。以下はそのコスト計算の仕方です。

購読物のダウンロードごとのコスト



OAのダウンロードごとのコスト



ここで注意していただきたいのは、OAの初年度のコストのみをコスト計算に使用するのはどうなのかという問題です。出版物をOA化するという事は、1年といわずそれを永遠にOAとして提供するという事です。これを鑑みず初年度だけでコスト計算するのは、はたしてフェアな計算なのかという問題があります。

上記二つの計算方法の主な違いは、ダウンロードごとのコスト計算をする場合の分母が特定の機関のUnique Item Requestであるか（購読物のコスト計算の場合）、または世界全体のUnique Item Requestであるか（OAのコスト計算の場合）です。この詳細は、「全世界へのレポート」をご覧ください。

インパクト（影響力）

利用状況のデータは、学術出版物のインパクト（影響力）を測定するツールの一つであるべきです。昨今そのインパクトを測定する方法として、文献引用数や、altmetrics が頻繁に使われています。

- 文献引用数は非常に直接的な方法です。文献が引用されるということは、その研究がほかの研究者によって見つけられ、（そして多分・・・）読まれ、価値がある文献だと認識されたということです。ただし、引用は遅れてされるため、一部の分野では引用されるまでに数十年かかることもあります。
- Altmetrics は、ソーシャルメディアやその他のオンラインサイトが文献をどう評価したかを表示するものです。引用数よりも即時性がある一方、Altmetrics はしばしば一過的な世間の関心を反映しており、学術活動や社会全般への持続的な影響を示すものではないかもしれません。

COUNTER準拠のプラットフォームが提供する比較可能で一貫した利用状況データは、インパクトを測定する第三の方法といえるでしょう。文献引用数とは異なり、利用数は公開日から即日発生し、Altmetricsとは異なり、利用数は利用者がその出版物となんらかの形で直に触れ合った数を正確に示します。

ただ、学術文献の評価は総合的なものであるべきで、これらの指標はどれも単独で使用してよいものではありません。あくまで様々な評価基準をもとに総合評価されるべきです。

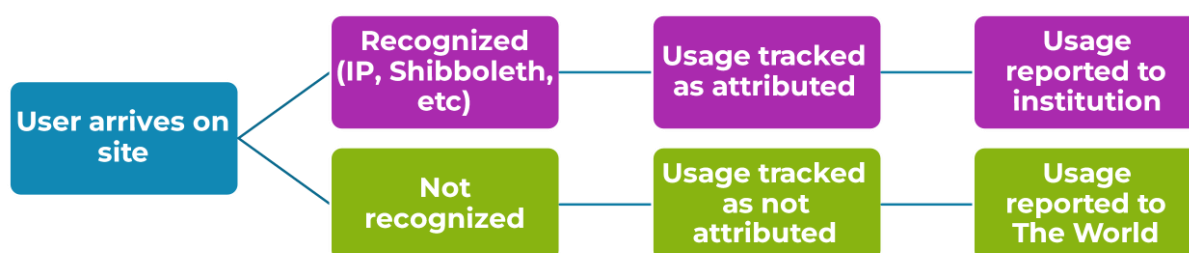
全世界へのレポート

出版社の多くが、出版物の利用状況はある特定の機関に関連付けて考えるのだけでは不十分だと感じています。ですのでリリース5.1では出版物の利用状況を全世界に関連付けて報告できるようにしました。これが、今回のグローバルレポートの誕生です。

使用状況をそれぞれの機関に関連付けるとは

ユーザー認証と帰属のプロセスを通じて出版物の使用状況はそれぞれの機関に関連付けられます。たとえばあるユーザーがある出版社のプラットフォームを訪れると、プラットフォームは通常ユーザーの目に見えない形でユーザーの認証をしています。ユーザーが認証内のIP範囲内にいるかどうかの確認が昨今の一般的なユーザー認証方法ですが、そのほかShibboleth、ユーザー名/パスワード、GETFTRなど、さまざまな認証方法があります。

ユーザーがある機関に所属していることが認証されれば、そのユーザーのすべての利用数とその所属機関で起きた利用数として認識されます。では、ユーザーがある出版物を閲覧して、そのユーザーがある機関に所属しているとプラットフォームが認識できなかった時はどうなるかというと、プラットフォームはその利用機関につ



いて、「世界」とします。

グローバルレポートの作成について

出版社のプラットフォームのグローバルな利用状況は、利用機関の特定できる利用と特定できなかった利用の組み合わせで表示されます。つまり、ある一定の機関に関連付けられることができた利用と、それ以外の「世界」に関連付けられた利用の二つが含まれます。出版社は自社出版物の世界での利用状況をすでに把握している

場合がほとんどなので、そのため出版社がCOUNTERレポートを作成する際、それを機関ごとの利用に分割して作成するので、出版社の多くはグローバルレポートを作成するための情報をすでに自社で持っています。

グローバルレポートには、国や国の地域区分（州など）地理的な要素と、利用機関の特定できる利用とそうでない利用の要素が含まれ、この要素によって利用状況を分類することが可能です。こういった分類方法を取るのは、ユーザーのプライバシーを保護し、かつ出版社の企業秘密も守るためです。もっと詳細な情報については、「COUNTERのAttributes, Elements, そのほかの用語について」の冊子をご覧ください。

グローバル・アイテムレポートがOA評価のかなめになる

昨今のOA化にあって、グローバルレポートはもちろん、タイトルレベルだけの情報にとどまらないジャーナルの個々の記事や本の個々の章など、もっと詳細なレベルでの利用を把握することの重要性が叫ばれてきました。そのためリリース5.1では、出版社（特にジャーナルや本の出版社）に対して、グローバルアイテムレポートの提供を推薦しております。なので当社では、「世界」の使用した出版物の利用を報告をするアイテムレポート（IR）を提供することを、出版社側にお願いしています。IRは、プラットフォーム上のすべてのアイテムに適用されるCOUNTERメトリックを表示する非常に詳細なCOUNTERレポートであり、アイテム自体に関する多くの情報（識別子、親タイトルなど）が含まれています。グローバルアイテムレポートはOA出版社にとってはもちろん非常に重要度が高いレポートですが、ほかの出版社も、グローバル・アイテムレポートを提供することを心掛けてほしいものです。

より詳しい情報について

より詳しい情報については、Code of Practice (<https://cop5.projectcounter.org/en/5.1>) と COUNTER Media Library (medialibrary.projectcounter.org) をご覧ください。

答えがどこにも見当たらないご質問がある場合は、当社のプロジェクト・ディレクターの下記のメールアドレスにご一報ください。

tasha.mellins-cohen@counterusage.org



COUNTER

Thanks to our generous sponsors,
Friendly Guides will soon be available in...

Chinese

Sponsored by SpringerNature

SPRINGER NATURE

German

Sponsored by Thieme

 **Thieme**

Spanish

Sponsored by Gale

 **GALE**

French

Translated by the Couperin Consortium and
the Canadian Research Knowledge Network

Japanese

Translated by Yuimi Hlasten, Denison College

